

＜校務利用＞ ⑥校内学習アンケートの分析・考察・支援の提案

【ガイドライン】（校務での活用例） ・学校の運営にかかわる業務の支援

【概要】

昨年度の学習アンケートの分析・考察結果と今年度のアンケート結果をPDF化し、ChatGPTに読み込ませてアンケートの分析・考察をさせました。昨年度は、担当教員が様々な資料を基に多くの時間をかけて一項目ずつ分析・考察を行っていましたが、今年度はChatGPTに行わせたことで、担当教員の校務負担の軽減につながりました。また、結果を基に、生徒への具体的な支援方法まで出力させることで、来年度に向けた生徒への学習支援の在り方のたたき台とすることができました。

【期待される効果等】

教員の校務負担の軽減につながります。また、生徒支援の具体的な指導方針・実践の検討に役立ちます。

AI PDF

R5年度の学習アンケートの分析結果をR4年度と同様の形式で出力します。以下はR5年度の1学年の学習アンケートから得られた主な結果です。

R5年度1学年の主な結果:

- ・ **学習の必要性:** 5月では100%の生徒が学習が必要だと回答しましたが、11月には96%に減少しました。
- ・ **将来の役立ち:** 現在学習している内容が将来役に立つと思う生徒は、5月には96%でしたが、11月には100%に上昇しました。
- ・ **授業のルール:** 授業のルールを守り、授業に臨んでいると回答した生徒は、5月では100%でしたが、11月には96%に減少しました。
- ・ **学習の目標:** 学習の目標を意識しながら授業に取り組んでいると回答した生徒は、5月では98%でしたが、11月には88%に減少しました。
- ・ **課題の解決:** 課題に取り組む際に既に学習した知識を活用しようとしている生徒の割合は、5月の92%から11月には96%に上昇しました。
- ・ **疑問を持つ:** 「なぜだろう」といった疑問を持ちながら授業に取り組んでいる生徒の割合は、5月の92%から11月には94%に上昇しました。
- ・ **他の考えとの比較:** 他人の考えを自分の考えと比較しながら読んでいる生徒の割合は、5月と11月ともに98%でした。
- ・ **問題解決のアプローチ:** 時間が分からない時にあきらめずに様々な方法を考える生徒の割合は、5月の92%から11月には88%に減少しました。
- ・ **授業の学びの日常生活への活用:** 授業で学んだことが日常生活や他の教科の学習に役立っていると感じる生徒は、5月の90%から11月には94%に上昇しました。
- ・ **新しい課題への挑戦:** 授業で学んだことを基に新しい課題に挑戦しようとする生徒の割合は、5月の80%から11月には73%に減少しました。
- ・ **復習の実施:** 授業で分らなかったことを家庭学習などで復習している生徒の割合は、5月の90%から11月には75%に減少しました。

これらの結果から、学習に対する意識や積極性についての変化が見られます。特に、学習の目標を意識しながら授業に取り組む生徒の割合の減少や、新しい課題に挑戦しようとする意欲の減少など、注意が必要な点がいくつかあります。一方で、「なぜだろう」という疑問を持ちながら授業に取り組む生徒の割合の増加や、課題に取り組む際に既に学習した知識を活用しようとする生徒の割合の増加など、肯定的

You

支援の提案のところで、具体的にどのような授業（支援）ができるか教員の立場で提案してください。

AI PDF

教員の立場から、R5年度のアンケート結果「授業について」の「考えを深める」と「豊かに表現する」部分に基づく支援の提案を具体的にを行います。

1. 目標設定ワークショップ:

- ・ **目的:** 学習の目標意識を高める。
- ・ **活動内容:** 生徒が自分自身の短期・長期の学習目標を設定し、それを達成するための行動計画を立てる。目標設定のSMART基準（具体的・測定可能・達成可能・関連性・時間的に限定された）を教え、生徒が自分の目標をSMART基準に沿って設定できるようにする。
- ・ **実施方法:** クラス全体でのワークショップ形式で行い、グループディスカッションやペアワークを通じて、互いの目標を共有し、フィードバックを与える。

2. 問題解決スキル向上プログラム:

- ・ **目的:** 問題解決のアプローチを多様化させ、粘り強い問題解決能力を育成する。
- ・ **活動内容:** 様々な問題解決手法（ブレインストーミング、マインドマップ、ロジカルシンキングなど）を教え、実際の学習課題や日常生活で遭遇する問題に適用させる練習を行う。
- ・ **実施方法:** グループワークを中心に、実際に生徒たちが問題を提示し、解決策を考える活動を行う。教員は適宜ガイダンスを提供し、生徒のアプローチをサポートする。

3. プレゼンテーションとライティングワークショップ:

- ・ **目的:** 生徒が自分の考えを明確かつ効果的に表現する能力を向上させる。